

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701053		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム あいの里		
所在地	青森県三戸郡南部町小泉字下館野7ー6		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの生活のペースを大切にしています。 24時間対応可能な訪問看護との連携により、心身の状態や体調に配慮して、受診にも細やかに対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは理念の精神に基づき、利用者がありのままの姿で、その人らしく生活できるよう、日々、「心のケア」に取り組んでいる。 職員は日々の利用者への声がけを大切にしており、その時その瞬間を観察して記録に残し、全職員で共有しながら、利用者の思いに沿った支援に努めている。 また、利用者の馴染みの場所や行事、親戚や知人等との付き合いを把握し、これまで大切にしてきた関わりを継続できるよう支援しており、散歩や買い物の際には地域住民と声をかけ合い、利用者が住み慣れた街で暮らし続けることができるよう、支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に意識できるよう、毎朝の朝礼で唱和し、日々意識を持ちながら利用者に関われるよう取り組んでいる。	地域への貢献を掲げた法人理念を基に、ホーム独自の理念を作成し、朝礼時に唱和したり、職員会議の際に振り返り、確認しながら、職員間で共有している。職員は理念の精神に基づき、利用者がありのままの姿で、その人らしく生活できるよう、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会等の地域の行事に、可能な限り参加できるよう支援している。	ホームの土地の所有者を通じて地域住民との交流を働きかけており、近隣住民が草刈りを手伝ってくれたり、散歩や近くの産直での買い物の際に声をかけていただいている。また、地域の集まりや敬老会等にも参加し、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町で実施している「徘徊・見守りSOSネットワーク」の模擬訓練に協力したり、町と災害時における「福祉避難所の確保に関する協定書」を締結し、町で行う防災訓練にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催し、事業所の運営やサービスの実施状況を報告している。地域の民生委員や家族代表、利用者代表の参加もあり、意見を伺いながら、サービスの向上に努めている。	メンバーには事前に開催案内を出して参加を促しており、2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を行っている。会議では、ホームの現状や行事、研修の内容等を報告しており、ホームの玄関先にコーナーを設け、家族や利用者が会議の内容等を気軽に回覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、健康福祉課や社会福祉協議会の職員にも参加していただいている。その他、報告や相談等を行い、情報交換をしている。	行政と協力関係を構築し、制度の改正やホームの課題、問題等について助言等をいただいたり、情報交換を密にして、常に連携を図りながら取り組んでいる。また、町の職員が毎回、運営推進会議に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを基に、職員会議で研修を行う予定である。	マニュアルを作成し、全職員が身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束を行わない姿勢で日々のケアに取り組んでいる。また、ホームでは年間を通じて学習課題として取り組み、外部研修への参加で習得した内容の伝達研修等で、全職員で理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを基に、職員会議等で説明・研修を行う予定である。また、虐待が見過ごされることがないように、職員の理解を深めるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を受けている。また、今年度の施設内研修に取り入れており、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や改定の際には家族に説明し、同意を得た上で署名・押印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際に意見や要望を伺ったり、当事業所以外にも伝えることができる旨を廊下にも掲示している。	ホームに話せない事等を相談できる機会や機関があることを提示している他、面会時やその他の連絡時等の機会を通じて、家族の意見や要望、思いを聞き出すように努めている。職員は利用者の思いや習慣を把握して尊重し、急かさず、見守りながら、意見や不満等を汲み取り、全職員で共有できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議時に、事前に意見や提案をしてもらっている。会議以外でも機会があれば聞き取りし、運営やケアに反映している。	毎月の職員会議は勿論、運営推進会議にも職員が参加しており、職員の意見が反映されるような場を設けている。また、年4回の個人面談を通じて、職員の要望や意見を確認しながら、ホームの運営に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の就業状況を把握し、公休等の勤務希望にも沿えるようにしている。女性が多い職場なので、育児や介護がしやすいように、残業等は殆どないようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者からの聞き取りや事業所を訪れることにより、各職員の力量を把握している。研修には積極的に参加するよう促し、研修の情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議やグループ内の研修に参加する機会を確保し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者から不安や要望を聞き取るだけでなく、様子を見ることにより、真の不安や要望に気づくよう努め、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を伺い、不安や要望を聞き取りながら、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時によく話を伺い、その時にまず必要なサービスを提供しながら、状況の変化に応じたサービスを利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では、職員と利用者が共に生活する仲間であることを常に意識し、一緒にできる事は共に行う等して、支え合う関係を築けるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況・状態報告、相談を密にし、本人と家族との絆にも配慮しながら、共に支え合う関係を築けるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事にできるだけ参加したり、これまで関わってきた場所や人を把握できるよう努めている。	家族等から情報収集し、利用者の馴染みの場所や行事、親戚や知人等との付き合いを把握しており、可能な範囲でこれまでの関係を継続できるよう支援している。また、利用者の思いに配慮し、関係を控える場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を持って生活できるよう、共用空間での座席の配置等に配慮したり、職員が間に入り、会話を促し、交流できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、相談があれば、可能な限り対応していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から、思いや意向を聞き取るよう努めている。本人の意向が確認できない場合は、家族より生活歴等を聞き取りし、本人の思いに沿うようにしている。	入居時のアセスメントや入居後の観察、家族からの情報収集等を通じて、利用者の思いや意向の把握に努めている。職員は日々の利用者への声がけを大切にしながら、利用者の思いに沿うように、その時その瞬間を観察して記録に残し、全職員で共有しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に利用者、家族より聞き取るようにし、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づいた事は申し送り時に報告し、会議の場等で検討している。また、日々の状況の変化を記録し、把握と情報共有に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が利用者の意向を反映しながら、家族や担当職員、必要な関係者（主治医・訪問看護等）からの情報を基に、介護計画を作成している。	利用者との関係を深める上で担当制を設けており、日々の関わりの中で利用者の思いや要望等を聞き出し、職員が気づいた事等を基に介護計画を作成している。また、必要に応じて家族や主治医等の意見も取り入れながら、利用者が普段の生活の中で可能な事を盛り込んだ、個別具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に介護記録に記入し、それらから得た情報を共有しながら、介護計画に反映するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療ニーズが高く、家族対応が困難な場合が多いため、受診支援を行っている。希望により買い物に出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握し、利用者の暮らしに活かせるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設としてのかかりつけ医はあるが、利用者の気持ちや家族の意向を尊重し、希望に応じて、入居前のかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。	入居時にこれまでの受療状況を把握しており、かかりつけ医への継続受診について、家族と話し合いを行っている。利用者の多くが往診可能な町内の協力医を主治医としている他、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護師が来所し、毎回、体調連絡表を作成して、体調や状態を報告している。また、24時間の連絡体制が確保できており、変化があった場合は報告し、指示を仰ぐようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族や利用者の了解を得て、情報提供書を病院に提出している。また、退院時には病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における事業所の対応に関わる指針を定め、入居の際に家族に説明し、同意を得ている。各利用者家族から意向を聞き取りしている。	利用者の重度化及び看取りに関する指針を作成し、入居時に説明している。ホームでは「住み慣れた街で、その人らしく最後まで」という理念の下、実践に取り組んでいるものの、現状では困難な課題も多く、関係機関とも話し合いながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救命救急講習を受講している。今後も定期的な受講を継続していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施している。また、地震や水害の被害に備え、発電機の使用訓練も年2回行っている。	年2回、消防署指導の下、総合訓練を実施している。また、ホームの建物が入り組んだ構造となっていることから、ホーム独自の訓練も定期的実施し、全職員がいざという時に適切な対応ができるように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の人格を尊重した言葉かけや呼びかけをしている。また、守秘義務やプライバシー尊重について研修したり、話し合っている。	利用者個々の人格や尊厳、プライバシーについて、研修等で取得したことを実践し、日々のケアに努めている。また、ミーティングや伝達研修時等にも話し合い、職員間で情報を共有しながら、利用者がその人らしく、ありのままに安心して生活できるよう、理念に基づいた支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話や傾聴することで、利用者が思いを伝えられるように努めている。また、些細な事でも本人に伺い、自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを見極め、できる限りその人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3ヶ月に1回、外部より理容師に来てもらい、散髪をしている。また、その人らしい身だしなみや衣類の選択ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っているが、利用者は簡単な下ごしらえや準備、後片付け等を、職員の見守りにて行っている。また、残存機能維持を兼ね、朝食のメニューを書いていたいている。	日々の関わりを通じて利用者の希望や好み、苦手なもの等を把握し、個々の状態に合わせた食材の準備や調理をしている。また、利用者に朝食のメニューを書き出していたいてホールに掲示する等、利用者の能力に合わせ、残存機能の維持に配慮した支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食、刻み食、ミキサー食等、各利用者の状態や要望に応じて提供している。常時、摂取量を記録し、摂取状況の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアができない利用者は職員が介助し、できる利用者には行うように声がけしており、全ての利用者が口腔内の清潔を保持できるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、残存機能を活かした支援をしている。	毎日の排泄パターンを記録し、個々に合わせた排泄介助の方法を検討している。また、日中・夜間の各オムツの対応が適切かどうかを話し合い、随時、見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足により便秘傾向にある利用者にはゼリーを提供したり、利用者の希望に合わせ、お茶に砂糖を入れて飲みやすくする工夫をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者一人ひとり希望やタイミングに合わせて、入浴している。重度な利用からは意思確認できないが、職員2人体制で、できる限り寛いで入浴できるよう支援している。	週2回を基本に、利用者の意向に沿った入浴を実施している。職員は利用者の羞恥心や精神的負担感に配慮し、介助を拒否する方には見守りを行っている他、重度の方には安全面に配慮して、2人体制で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望に応じ、柔軟に休息をしていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の目的や副作用を把握し、服用時には介助や見守りを行っている。また、2週間に1回、主治医に状況の変化報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割を持っていただき、楽しく作業している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の楽しみや気分転換につながるよう声がけをしている。また、通院時にも利用者の希望に応じて、買い物に付き添っている。	年間の行事を企画し、その季節に合った外出を行っている他、買い物等、日常的な外出の機会も設け、利用者の楽しみや気分転換となるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、家族と連絡をとりながら、食事や温泉入浴等に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の置き場所や金額を忘れていることがあるが、家族の希望も含め、利用者本人の安心・満足する気持ちを考慮し、利用者自ら金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望があった時は、都度、対応しており、職員が電話の対応を依頼された場合も対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間や居室には温・湿度計を設置し、配慮している。また、共有空間には季節毎に飾り付けをして、利用者が季節を感じられるよう工夫している。	ホームの構造上、一人で過ごしたい方、集団で過ごしたい方それぞれが、思い思いに過ごせる環境であり、利用者にとって心地よい空間となっている。また、季節が感じられる紅葉や柿等の飾り付けがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもソファを置き、利用者が自由に好きな場所で寛げるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物好きの利用者のために、親戚が持ってきたぬいぐるみを並べたり、職員の寄付による物を置いている。また、写真や位牌を持参している利用者もいる。	使い慣れた物を無理のない範囲内で用意していただくよう、協力を呼びかけている。居室には時計やソファ、家族の位牌等が持ち込まれ、その人らしい生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手すりを取り付けて、安全に移動できるようにしている。また、トイレや浴室に目印を付ける等し、利用者の場所の間違いを防ぐよう支援している。夜になると自動的に点灯するライトを付け、夜間の安全な移動に配慮している。		